

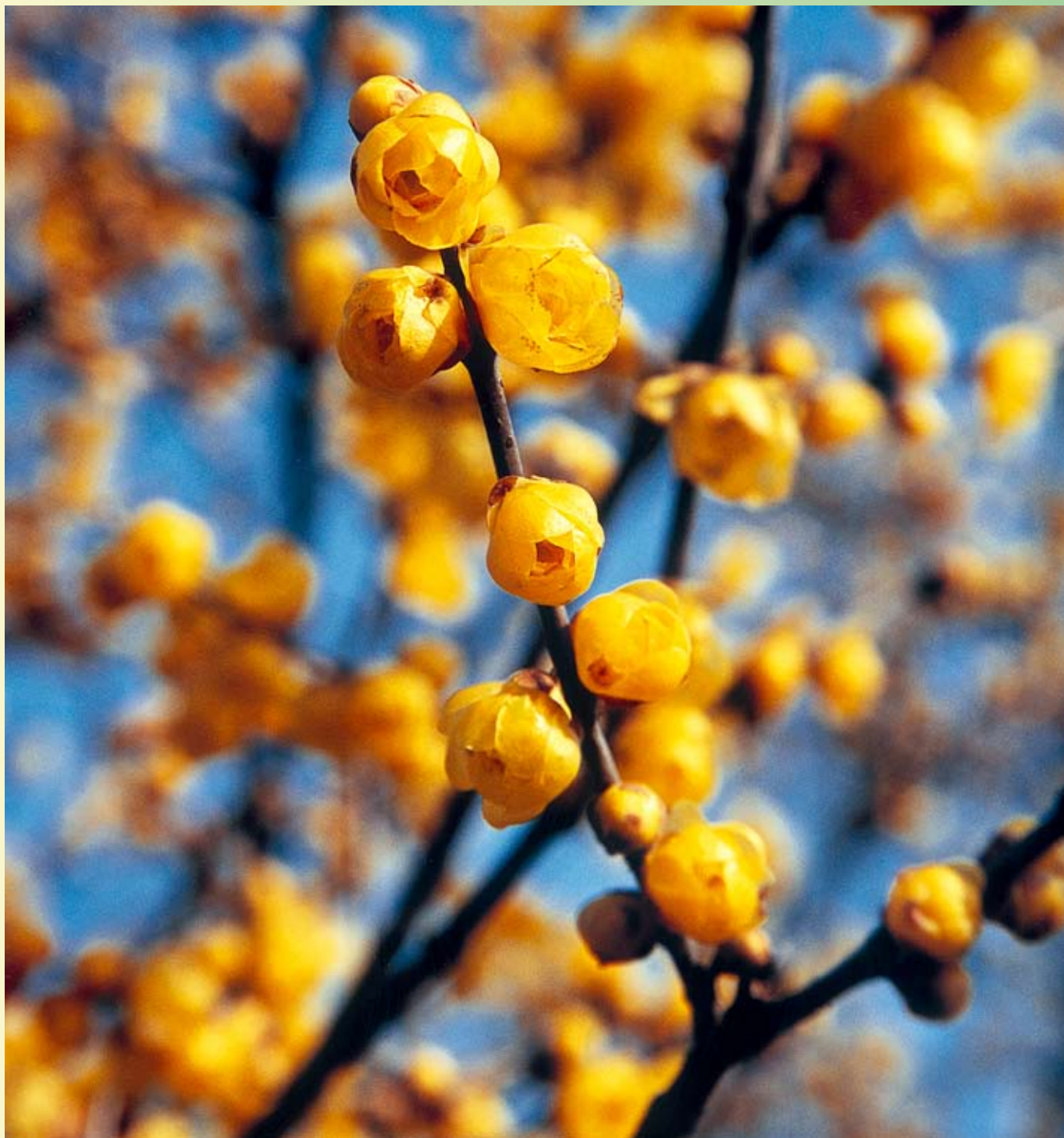


ドリ阿斯

富山県

No.46 2008年1月

中央植物園だより



ソシンロウバイ *Chimonanthus praecox* (L.) Link 'Concolor'

中国原産のロウバイは内側の花びらが暗紫色になりますが、ソシンロウバイはその部分も黄色になる園芸品種です。強い芳香があり、中央植物園では「香りの植物」エリアに植栽してあります。

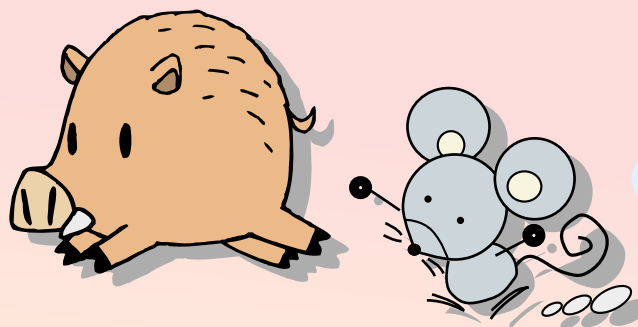
「早春」 撮影/釜谷勝弘さん（第10回私の植物写真展応募作品）

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

1月～3月のサンライトホール展示

「干支にちなんだ植物展」

1月16日(水)まで開催中



新年は1月5日(土)から
開園します



「ミッキー」という名前の
ビオラの品種

毎年恒例になった「干支にちなんだ植物展」を開催しています。

昨年「亥」と今年「子」を中心に干支に因んだ植物を実物や標本、写真などで紹介しています。「亥」に因んだ植物ではベニウチワやシクラメン、「子」に

因んだ植物ではネズミモチ、ネズミガヤ、ネズミノオ、ウバユリ、イヌツゲを展示しています。



Arisarum proboscideum Savi (サトイモ科)

「mouse plant (ねずみのような植物)」として知られるスペイン、イタリア原産の植物です。開花調整を行っていますが、本来の開花期は春なので写真でしかお見せできないかもしれません。

「平成19年度研究発表展」2月1日(金)～2月20日(水)

植物園の職員が日ごろ行っている植物の調査・研究の成果をポスターにまとめて展示します。

昨年マスコミ等でも報道された「立山センターにおける靴底土から発芽した植物」や「富

山県で新たに確認された植物」、「富山県で新たに確認されたキノコ」、「中央植物園でのオオオニバスの栽培」などを紹介する予定です。

関連行事 「平成19年度研究発表会」

日時：2月3日(日) 13:30～16:00

場所：中央植物園研修室

「研究発表展」で紹介している研究について職員が直接紹介します。質疑応答の時間もありますので、この機会にぜひ参加してみてください。



昨年の発表会の様子



昨年の研究発表の様子

「第36回富山県蘭まつり大会」 3月7日(金)～3月9日(日)

中央植物園サンライトホール・ドリアスホール



昨年開催された「第35回富山県蘭まつり大会」の様子

今年度の「蘭まつり大会」では「蘭が結んだ国際交流の軌跡」と題し、日中友好の功労者として知られている富山県福光町（現南砺市）出身の政治家、故松村謙三氏にゆかりのあるランに関係がある品々を特別展示します。松村氏はランの愛好家として知られ、松村氏が持ち帰った中国ランは現在も多くの愛好家に栽培され、受け継がれています。

今年も400株を超える洋ラン、東洋ラン、

野生ランなどをサンライトホールとドリアスホールに展示します。

関連行事：ランの栽培講習会

日時：3月8日（土） ①10：00～11：30

②14：00～15：30

3月9日（日） ①10：00～11：30

②14：00～15：30

場 所：管理研修棟研修室

講 師：富山県蘭協会会員

参加費：無料（蘭展をご覧になるには入園料が必要です）

※ 内容については植物園までお問い合わせください

「第13回 私の植物画展」

3月11日(火)～3月31日(月)
9：00～17：00



昨年の出品作品

■私の植物画展作品の募集については
最後尾の催し物のご案内をご覧ください。

植物画は「ボタニカル・アート」とも呼ばれ、植物を植物学的に正確かつ精密に描いた絵のことで、県内外から募集した作品約100点を展示します。

※ 入園料が必要です

関連行事

第10回ボタニカル・アート展

日時：平成20年3月28日(金)～31日(月)

場所：県民会館ギャラリーA

中央植物園友の会植物画部会による
会員の作品展です。

活動報告(9～11月)

「ハイビスカスとフヨウの仲間」

8月31日(金)～9月19日(水)



南国をイメージするハイビスカスとフヨウの仲間、100種類、200株を展示しました。入園者はハイビスカスの鮮やかな色に魅せられていました。

「フラワーデザイン展富山2007」

9月22日(土)～24日(月・祝)



(社)日本フラワーデザイナー協会富山県支部との共催により、初めての「フラワーデザイン展」を開催しました。期間中には「フラワーデザイン教室」も開催されました。

「茶と珈琲の植物物語」

9月28日(金)～11月7日(水)



様々な形のプアール茶



コーヒー豆の香を楽しむ園児

世界中で愛飲されていてお茶とコーヒーにスポットを当て、原料となる植物や緑茶、紅茶、ウーロン茶、プアール茶などさまざまなお茶を展示しました。8種類の銘柄のコーヒーを展示したコーナーでは香の違いを確かめていました。

第15回TOYAMA植物フォーラム

「お茶とコーヒーのある暮らし」10月7日(日)



北陸大学薬学部の劉園英准教授(写真上)からは様々なお茶の効能について、富山県立大学の荻田信二郎講師(写真下)からは最先端の技術を用いて荻田先生のグループが世界で初めて作出したカフェインが少ないコーヒーの話を中心にコーヒーの成分についてお話をいただきました。



①「紅茶・中国茶の楽しみ方」10月1日(月)

②「体験 バタバタ茶」10月14日(日)

③「親子茶道教室」10月20日(土)

④「コーヒーの楽しみ方」10月28日(日)



企画展「茶と珈琲の植物物語」に関連してお茶とコーヒーの体験イベントを多数開催しました。

県民植物学講座

④「富山県の絶滅危惧植物」10月21日(日)



現在、世界各地で植物の絶滅が問題になっています。各地の植物園はそのような植物を調査して保存することも重要な役割です。中央植物園の中田政司副主幹研究員が「富山県の絶滅危惧植物」と題して、その現状や保全について紹介をしました。

「第1回秋のラン展」

11月16日(金)～18日(日)



カンランの開花時期に合わせて初めて開催した「秋のラン展」は予想をはるかに上回る約350点の出品があり、大勢の入園者で賑わいました。「秋のラン展」は今後毎年行っています。

栽培講習会「ランの植替えと管理」

11月17日(土)・18日(日)



「秋のラン展」の開催に合わせてランの栽培講習会を行いました。17日は「カンランの栽培」、18日は「洋ランの栽培」で、皆さん熱心に聞いていました。

植物園 トピックス

■昆明植物研究所の魯元学さんが来園しました。



中国雲南省の植物について共同研究を行っている中国科学院昆明植物研究所の魯元学さんが平成19年度(財)国際花と緑の博覧会記念協会助成事業による共同研究「トウツバキ園芸品種の保全に関する日中

共同研究」のため来園しました。1月24日まで、雲南省を代表する花のトウツバキの組織培養の研究を行っています。

■「ボタニカル・アート展」の巡回展を開催しました。



富山県では中央植物園を中核施設とし、県内各地の植物園を結ぶ植物公園ネットワークを構築しています。今年度はネットワーク事業初の試み

として、友の会植物画部会の協力を得て、4～5月に「富山県花総合センター」、9月に「南砺市園芸植物園」、11月には「氷見市海浜植物園」で「ボタニカル・アート展」を巡回で開催しました。

■鵜坂小学校の5年生が花壇づくり



新設した入園口広場花壇に鵜坂小学校の5年生がパンジーを植えてくれました。

研究紹介◎『琉球列島の絶滅危惧植物の保全』

兼本 正

琉球列島は九州から台湾に至る約1300kmの範囲に弧状に連なる島々からなり、区系地理学的には大隈諸島、屋久島、種子島、トカラ列島は北琉球、奄美群島と沖縄群島は中琉球、宮古諸島と八重山諸島は南琉球、大東諸島、尖閣諸島の5地域に区分されています。植物地理学的には北琉球は日華植物区系区、残りの4地域は東南アジア植物区系区に区分されています。



オキナワマツバボタン(スベリヒユ科)
Portulaca pilosa ssp. *okinawensis*
琉球列島固有種

琉球列島の植物相を構成する要素は日本の暖温帯地域、南中国、台湾、フィリピン、マレーシアなどの要素を強く受け成立し、さらに島嶼的隔離によって独自の種分化が作用し、非常に多様な種が存在している地域でもあります。現在琉球列島には1700種の植物が認められていますが、この値は単位面積あたりに換算すると、日本本土の42倍の種数となり、いかに琉球列島が種多様性の高い地域であるかわかります。これは狭い面積の中に多数の種が生育し、種あたりの個体数と生育地が少ないことを意味しま

す。従って、わずかな生育環境の改変や消失でも、絶滅の危機を加速する結果となります。

現在琉球列島には686種が絶滅の危機に瀕しています。これらの多くは元々個体数が少なく、個体群の規模も小さく、さらに非常に限られた地域に生育している種であり、1個体、1個体群の消失は種の存続に大きな影響を与えます。また琉球列島では異なる島から同種が持ち込まれ、緑化木として栽培されています。このことは島嶼的隔離によって形成された島ごとの遺伝的なまとまりを損なう危険をはらんでいます。富山県中央植物園では開発や環境の変化により琉球列島において絶滅の危機が増大している種の保全と研究を行っています。植物園が直接絶滅危惧種に対して行う保



オキナワマツバボタンの自生地。
沖縄島では数箇所しか自生が確認されおらず、しかも個体群の大きさは葉書1枚程度である。

全に加え、絶滅危惧植物種の現状と保全する意義を広く社会に認識してもらう活動も植物園が絶滅危惧種を救う手立てとして重要だと思われます。

お知らせ!

第18回 **花と緑**のフェスティバル を今年は中央植物園で開催します

日 時: 2月22日(金)～2月24日(日) 9:00～17:00

入園料: 大人600円、高校生以下無料

今年は、「花と緑に親しみ潤いある環境」をキャッチフレーズに、「地域の生活と文化に根ざした花と緑のふれあい」を提案します。



昨年のフェスティバルの様子

催し物のご案内

■サンライトホール展示

「干支にちなんだ植物展」

12月7日(金)～1月16日(水)

9:00～16:30

今年の干支「亥」と来年の「子」に因んだ植物を実物や写真などで展示します。
入園料が必要です。

「19年度研究発表展」

2月1日(金)～2月20日(水)

9:00～17:00

植物園の職員による調査・研究の成果についてポスターにまとめて展示します。
入園料が必要です。

「第36回富山県蘭まつり大会」

3月7日(金)～3月9日(日)

9:00～17:00

富山県蘭協会との共催による県内最大のラン展です。
入園料が必要です。
栽培講習会も開催します。

「私の植物画展」

3月11日(火)～3月31日(月)

9:00～17:00

全国から募集した植物画を展示します。
入園料が必要です。

■私の植物画展作品募集

1 応募要項

- ・科学的に正確な精密画で、透明水彩絵の具で彩色したもの、あるいは墨入れた線画
 - ・A3サイズ以下(297mm×420mm以下)
 - ・1人1点
- ※額装の必要はありません。

2 応募方法

- ・作品の裏面に氏名、描いた植物名、完成年月日、住所、電話番号を記入し、植物園まで持参または送ってください。
- ・郵便での返送をご希望の方は、郵便切手を添えてお申ください。
また、着払い宅配便での返送をご希望の方はその旨お知らせください。

3 作品受付期間

平成20年1月5日(土)
～2月20日(水)

4 作品の送付先

〒939-2713
富山県富山市婦中町上轡田42
富山県中央植物園

■観覧会・講座・講習会

★「19年度研究発表会」

2月3日(日) 13:30～16:00

場所／研修室
発表者／中央植物園職員
定員／70名
参加費／無料

デジカメ講座「花を撮ろう」

2月10日(日) 9:50～15:30

場所／研修室、園内、富山県ITセンター
定員／16組
参加費／無料

富山県ITセンター情報工房との共催行事で、午前中は植物園で花を撮影し、午後はITセンターでオリジナル植物図鑑を作ります

◆申込については富山県ITセンター(076-444-7887)へお問い合わせください。

★ランの栽培講習会

3月8日(土) ①10:00～11:30

②14:00～15:30

3月9日(日) ①10:00～11:30

②14:00～15:30

場所／管理研修棟研修室
講師／富山県蘭協会会員
定員／50名
参加費／無料

■月例行事

日曜植物案内

1月6日(日)・1月13日(日)

2月3日(日)・2月10日(日)

3月2日(日)・3月9日(日)

13:30～14:30

集合場所／サンライトホール
参加費／入園料が必要
ガイドボランティアや職員が見頃の植物などを解説します。

★印はボランティア養成講座です

友の会会員募集中!

■特典

会員証を示しサインするだけで入園できます。／会報や植物園だよりが送られてきます。／多彩な友の会の行事に参加できます。／印刷物を割引で購入できます。

■会費

年額3,000円。5月以降、新規に加入される方は初年度会費の割引を受けられます。

■入会方法

植物園の入園窓口で随時受け付けています。

富山県中央植物園 入園案内

◎開園時間

9:00～17:00(入園は16:30まで)

(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

◎休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

◎入園料

大人(一般および大学生) 600円
団体料金(20名以上) 480円
高校生以下 無 料

◎交通案内

JR富山駅から、富山地铁バス…「ファボーレ 経由萩の島循環」に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分／富山市中心部より車で約15分／北陸自動車道富山インターより車で約15分／JR速星駅より車で約8分